

- **通信総合研究所科学技術講演会のご案内**  
—上林弥彦教授とアラン・ケイ氏が語る新しいコンピューティング環境と情報教育—
- 平成15年10月1日

独立行政法人通信総合研究所けいはんな情報通信融合研究センターにおいて開始されたオープンラボプロジェクトの一環として、創造性育成を目指した新しい情報教育環境やコンピューティング環境についてご活躍中の京都大学上林弥彦教授並びに「パソコンの父」といわれるアラン・ケイ氏を迎えて科学技術講演会を下記により行います。多数の方のご参加をお待ちしております。

記

日 時: 2003年10月8日(水) 13:00~15:00

場 所: けいはんなプラザ 3F大会議室 ナイル(<http://www.keihanna-plaza.co.jp/index.html>)

主 催: 独立行政法人通信総合研究所けいはんな情報通信融合研究センター

参加費: 無料

**講演会プログラム:**

12:30-13:00 受付

13:00-14:00 上林弥彦教授 講演 (京都大学情報学研究科長)  
操作履歴解析とそのWeb/教育への応用

14:00-15:00 アラン・ケイ氏 講演 (Viewpoints Research Institute所長、HP研究所シニア・フェロー、京都大学客員教授)  
学習とコミュニケーションのための 新しいコンピューティング環境  
(New Computing Environments for Learning and Communication)

参加申し込み方法: メールか電話又はFAXにてご連絡ください

申込み先: 河野

TEL:0774-98-6879

FAX:0774-98-6960

<問い合わせ先>

けいはんな情報通信融合研究センター

メディアインタラクショングループ

灘本 明代

TEL 090-3103-2883

パーソナルコンピュータ、オブジェクト指向言語、新しい教育メディアの提唱などで著名なAlan Kay博士は、現在、Viewpoints Research Institute所長、米国ヒューレットパッカード研究所シニア・フェロー、京都大学客員教授を務めておられます。博士は、1970年代から子供たちの教育へのコンピュータ利用をライフワークとして取り組んでおられます。最近では、ロスアンゼルスにViewpoints Research InstituteというNPOを作り、新しい教育メディアのための基盤となるオブジェクト指向言語SqueakやSqueakをもとにした3次元仮想空間環境Croquetを開発し、これらの新しいソフトウェア環境をもとに、複数の学校での実践や各地での講演を精力的にこなしています。その独創的な発想や研究開発成果は高く評価されており、現在HP研究所のシニア・フェローとしても活躍しておられます。

Alan Kay博士が使いやすいコンピュータを理想としてきた背景には、誰でもコンピュータの能力を活かせるようにするべきであるという考えがあります。また、コンピュータをブラックボックス化するのではなく、プログラムの開発環境とプログラムの利用環境を一体化すべきであるという強い信念を持っておられます。使いやすい言語を用いるとコンピュータの概念学習だけでなく、その応用、特に創造性育成の教育に有用であるというのが博士の基本的な考えで、このために、Squeakというオブジェクト指向言語が開発されました。

本年4月からは、博士は、京都大学情報学研究科の客員教授として、教育への応用だけでなく、オブジェクト指向言語、利用者インタフェースなどの先駆的な業績を後進の指導に生かしておられます。

通信総合研究所オープンラボプロジェクトにおいて、メディアインタラクショングループは、「コンテンツ融合とその社会的利活用」のための環境構築技術の研究開発を担当しています。コンテンツの扱いを中心に据えた本研究プロジェクトでは、次世代デジタルアーカイブや、デジタルライブラリやデジタルミュージアムのための技術研究の観点から、Alan Kay博士のCroquetに注目しています。Croquetは、パソコン同士をサーバーを介さずに直接接続するP2P環境で作動する3次元仮想空間ソフトウェアです。デジタルコンテンツの閲覧や検索を行うソフトウェア環境としてCroquetは極めて示唆に富む魅力的な機能を提供していることから、このたび、同博士を招聘し、講演をお願いしたものです。オープンラボプロジェクトでは、今後のプロジェクト遂行にあたり、Alan Kay博士のご協力をいただくことについてすでに内諾を得ており、今後、同博士との共同研究などを計画しています。



上林弥彦 京都大学教授